

ひとりひとりの子どもを見つめて ③

赤羽 美代子



一月も中旬の、ある日の出来事である。

この日の朝、H子の登園がやや遅れているので、私は、ちよいちょい、園の玄関にH子の姿を求めて見に行った。H子は去年の秋に弟が生まれてからは、母方の祖母が園まで送り迎えをしている。この二、三日は、途中で祖母と別れ、H子ひとりで登園してくるので、大分、緊張して園に着く。(通園方法は私鉄とバス利用、通園時間は約一時間)

やがて、緊張した顔つきのH子の姿が見えた。H子は私の姿を見つけると、ホッと緊張した顔をくずし、笑って駆け寄ってきた。私もホッと、両手を広げて、

「H子ちゃん、おはよう。待ってたのよ」

と、私の手でH子の頭を包み込んであげる。H子は息をはずませて

「おはようございます」

と私に挨拶をする。ふと、H子は私のカーディガンの中に自分の頭を入れて、

「アッハ、、、」

と笑っている。H子の母親は紺色を好んで着ている。今日の私のカーディガンは、H子の母好みの紺色のカーディガンである事を思った。H子は、登園がやや遅れて、途中の道では友だちの姿にも会わず、緊張しながら、息せき切ってやって来たのだろう。今、そのゆるみを身体に感じ、同時に懐しい日なたの匂いを嗅いでいるように、この紺色のカーディガンに、母を感じているのではあるまいか。しばらくの間、

「先生、私を待ってたの？」

「私がいなくて淋しかったでしょう？」

と言いながら、上履に履き替えていた。私に促されて、スキップで部屋へ急いだ。

H子は、弟誕生の半年前より、私立小学校受験のため塾通いやら、母親の出産、またH子の世話をしてくれる祖母が病気になるやらで、周囲の都合による欠席が目立っている。私は、今日はH子の甘えの対象になって、十分にH子を甘やかせてあげようと思った。

すでに九時半近くになっている。あちこちでは、グループを組んでの遊びが発展している。普段のH子は、身長、体重も年長組では一番大きく成長していて、クラスのリーダー格であり、はきはきとした利発な子である。冬でも暖かい日などは、頭に水を被ったかと思われる程汗をかいて、ダイナミックに遊び切る。そんな時の教師は、憐れにも遊びからはみ出されてしまう格好になる。

H子が、ブラーッと部屋から出てきた。動物が獲物を捜しているように、すでに始まっている遊びの中に、自分はどう溶け込もうかと、捜している目である。私はH子の外側にいて、H子がどうでるかを待つ事にした。

四、五分程すると、H子がべそをかきながら、私の所に来た。

「先生、私は乞食みたいに、お人形の蒲団が一枚しかない

の。全部、K子ちゃんが持っていてしまったの」

と泣き声を出す。

「困ったわねー。K子ちゃんに入れてって聞いてみたの？」

「まだ、聞いてない」

「聞いてみたらどうかしら？」

「うん」

H子は幾分重たい足どりで、K子の所に行って交渉している。いつもは、ねばって、何とか遊びを自分の思うように引っばっていつてしまうH子だが、

「K子ちゃん、やっぱりだめって言ったの」

と帰ってきた。私は丸くてポチャポチャとしたH子の頬を両手でふわっと包んで、

「先生のカーディガンではいけませんか？」

と聞いてみた。私の両手の中で、H子の目が輝いた。明るい声で

「いいよ」

と元気な返事が返ってくる。私はH子に母の匂いをするカーディガンを着せて、一度、力を入れて抱いてあげると、H子は、ダブダブと駆けて行った。H子のおかしげな姿を見かけたK子や他の女兒たちが、H子を見過ごすはずがない。H

子の所にとんできて

「それ誰の？ 先生のもしょう？」

「どうして借りたの？」

と聞いている。やがて紺色のカーディガンがきっかけに、友だちも増えて、いつものH子のダイナミックな活気に満ちた遊びが展開していった。

やがて、時計も十一時過ぎて、片づけが始まった。

「先生、どうもありがとう」

とH子がきちんと畳んだカーディガンを返しにきた。

「いいえ、どういたしまして。いつでもどうぞ」

「あれー、先生の手、冷たいね」

と言って、H子の小さい両手は、私の大きな両手をくるんでくれた。

「先生、私の手、暖かいでしょう？」

と言って、次に、私の頬を自分の手で挟んで暖めてくれる。

「あー、暖かい。H子ちゃんの手から温泉が流れ出てきました」

「ウへ、。先生って、やだわ。やだわ」

と、他の女兒たちと駆けていく。

翌朝、H子が登園してきた。私を見つけ駆け寄ってくる。

「先生、遅いのですが読んで下さい」

と、手紙を鞆の中から出して私に渡す。折り紙で、自分で作ったピンク色の封筒に、ハートの模様が書いてあり、その下に私の名前が書いてある。中から、星とお姫様の絵が描いてある手紙が出て来た。

「あけまして おめでとうございます

ことしも よろしく おねがい

いたします

H子」

と書いてあった。

私も、H子に、どうぞよろしくと、頭を下げる。

私は、先ず、H子の心に自分を乗せてからH子とかかわる事ができてよかったと思った。子どもの内面の世界で、共にし、遊びを共有していくために、子どもを、もっと、もっと知りたいたいと願った。

(豊南坂幼稚園)